

【別紙】 令和7年度 学校 自己評価重点目標シート（川口市立高等学校附属中学校）

（Ａ４判横）

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	未来を創る しなやかでたくましい人材の育成
目指す学校像	未来を創る しなやかでたくましい人材を育成する川口市のリーディング校 一さらなる選ばれる学校づくりー

達成度	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

出席者	
学校関係者（教職員を除く）	４名
事務局（教職員）	６名

学 校 自 己 評 価					
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価 （ 令和 8 年 1 月 3 0 日 現在 ）	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
組織運営	・開校4年目の昨年度は、生徒、保護者、教員の声を反映させた改善を行うことができた。5年目の今年度は、高校との連携をさらに深めることで、中高一貫校としての学校運営の軸を確立する。 ・次年度の募集拡大が決定したことから、市教委、高校との連携を更に密にし、遺漏の無いように準備を進める。	○高校や市教委との連携を更に強化し、中高一貫校としての学校運営の軸を確立する。	○高校、高校事務室、市教委との連携を、定期的・継続的に行い、安定した学校運営につなげる。	○定時の打ち合わせに限らず、日常コミュニケーションを意識して行うことで、中高の連携が深まった。	A  A  B  A
		□高校との連携において、教員レベルでの連携を強化し、一貫校としての魅力アップにつなげる。	□高校における中学生の授業担当、一貫生担当者、総合的な探究の時間担当者等の交流を推進する。	□教科指導の面においても、昨年度よりも連携が深まった。特に、探究学習においては、定期的担当者会議の開催により、6年間を見通した学びや、ゼミ形式の学習など、具体的な成果が上がった。	
		◇募集拡大に向けて、見通しを持った準備を行う。	◇市教委、高校と連携し、施設・設備、人員、カリキュラム等の準備を見直しをもって行う。	◇教室配置計画策定のための検討会議を定期で開催し、共通理解を図った上での計画を策定できた。	
教育課程	・昨年度は、教育課程について質・量の両面から見直し、改善を行うことができた。今年度は、高校との連携をさらに推進し、一貫校として教育内容の更なる充実を図る。 ・生徒は何事にも主体的に取り組む姿が見られる。今後も生徒一人一人を大切にした教育活動を展開し、愛校心を育み、伝統を作っていく。	○「よき学習者」としての資質を育成する教育活動を行う。	○主体的、対話的で深い学びを中心とした授業を行うとともに、学習面談等を通じて自走できる学習者の素地を育成する。	○対話的な学びが本校の特色として、どの教科でもスタンダードになり、学校訪問でも高い評価をいただいた。学習面談の効果もあり、全体の学力向上につながった。	A  B  A
		□中高一貫校として、6年間を見通したカリキュラム作りを更に推進する。	□総合的な学習の時間や、特別活動における探究的な学びを高校の総合的な探究の時間につなげるなど、6年間の一貫性のあるカリキュラム作りを推進する。	□高校と連携した学びを創り始めることができた。	
		◇生徒を主語にした教育活動を展開することで、生徒一人一人に自己効力感を育み、附属中学生としてのプライドを持った状態で高校へ繋ぐ。	◇全ての教育活動において、生徒に判断、決断、実践させることにより、成就感、達成感、他者貢献等を味わわせ、非認知能力を育む。	◇生徒を真ん中に置いた活動を徹底することで、埼玉県学力・学習状況調査における「自己効力感」の向上につながった。	
開かれた学校づくり	・市内への周知は軌道に乗り、安定した倍率を確保できている。 ・生徒の生き生きとした姿を発信することが最大のアピールになっているため、今後も継続が必要である。 ・次年度の募集拡大に向け、更なる積極的な情報発信が必要である。	○より多くの市民に本校の魅力を知らってもらうため、積極的な情報発信を行う。	○学校ホームページの更なる充実、学校説明会や体験授業の更なる充実に取り組む。	○ホームページの更新は頻繁に行い、閲覧数が大幅に伸びた。学校説明会では、生徒による相談コーナーを設置し、好評をいただいた。	A  A  B
		□市内児童に直接本校の魅力を伝える。	□OB/OGによる母校訪問の内容を充実させ、本校の魅力が市内児童に直接伝わるようにする。	□母校訪問については、計画通りに実行し、小学校の先生方からも温かい言葉をいただいた。	
		◇川口市外の児童に本校の魅力を伝える。	◇塾や情報雑誌等、様々な機会を活用し、川口市外の児童・保護者に対して、本校の魅力を発信する。	◇市外への募集拡大に伴い、塾を中心媒体として周知活動を行った。	

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 8 年 1 月 3 0 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・中高連携は大切なので、今後も進めてほしい。	
・今後１０年を見通した計画を策定してほしい。	
・引き続き、十分な教員数を確保すべき。	
・生徒が生き生きと学ぶ姿が素晴らしい。 ・掲示等の工夫も見られ、学習環境が整っていた。	
・一貫生と高入生が競い合うような教育課程を策定してほしい。	
・特になし	
・特になし	
・本校で学ぶ意欲のある川口市の児童が、今後もたくさん入るようにしてほしい。	
・施設、設備、備品等の環境の良さを、更に積極的に周知すべき。	

教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員がベクトルを揃えて教育活動に取り組んでいる。</li> <li>・本校の取組の継承のため、新たに着任した教員に対して本校の特色や魅力を伝える必要がある。</li> <li>・一人一人がリーディング校の職員としての自覚と誇りを持ち続けなければならない。</li> </ul>	○校長の「目指す学校像」の具現化に向け、教職員一丸となって取り組む。	○職員会議や人事評価面談、また、普段のコミュニケーション等を通じて、教職員一人一人の意識の啓発を行う。	○機会をとらえ継続的に啓発を行った結果、教職員の意識の向上につながり、チームとしての一体感が感じられた。	A	○働き方改革の推進に伴い、勤務時間内にじっくりと話し合える時間を確保するのが困難な状況がある。ボトムアップの意見を取り入れながら、改善に取り組みたい。	・特になし
		□学習に軸足を置いた本校の特色を共通理解することで、自覚をもって自己研鑽に取り組む教職員を育成する。	□研究発表会への参加や先進校視察等を奨励する。また、研究授業の実施や教科部会の活性化を通じて、学校としての教科指導を確立する。	□限られた時間内ではあるが、以前よりも教科ごとに話し合う場面が多く見られるようになった。時間外に、個人の教科研究等に取り組む教員もいた。	B		・特になし
		◇誰からも信頼される教職員集団を育成する。	◇各種主任を中心としたまとまりのある教職員集団とすることで、帰属意識を高めるとともにプライドを育み、信頼される教職員集団をつくる。	◇ベクトルは揃えつつも、各教員の特色・持ち味を生かした教育活動が展開できた。ストレスチェックでも、良好な結果が得られた。	A		・特になし
施設・設備等の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のカリキュラムを実施する上での中高の連携はできてきている。</li> <li>・今後の募集拡大を想定した施設、設備の計画的な準備が必要である。</li> <li>・人の出入りの多い環境の中での防犯対策は大きな課題である。</li> </ul>	○中高一貫校としての持続可能な施設、設備の活用並びに管理方法を確立する。	○高校、高校事務室、市教委との連携を密にし、持続可能な活用並びに管理方法を確立する。	○定期的管理職の打ち合わせ等を通じて連携を密にし、施設の円滑な活用・管理を行うことができた。	A	□施設や備品などの予算に関わる事項について、更に連携を深めることで遺漏無く準備したい。 ◇本校の特性上、防犯対策については特段の意識を持ち続ける必要がある。教職員・生徒共に「自分の安全は自分で守る」という意識を高めた。	・特になし
		□募集拡大に向けた施設、設備の計画的な準備。	□高校、高校事務室、市教委との連携を密にし、募集拡大に伴う変更点を洗い出し、遺漏なく準備する。	□教頭を中心に高校との連携をした会議を設置し、教室配置計画を策定することができた。	B		・特になし
		◇できうる限りの最大限の防犯対策を行う。	◇安全点検、防犯対応訓練、警察等専門機関と連携した防犯対策（生徒の指導を含む）、防犯用品の設置等を計画的に行う。	◇警察等専門機関の方を招聘した訓練を実施するとともに、その助言に基づいた防犯用品等の設置を行うことができた。	A		・安全担当の指導になるが、道交法の改正や募集拡大に伴い、自転車の安全指導については更に徹底してほしい。